

## IPSにおける就学から就労ワンストップサポート支援の構築

### ○高橋由佳

特定非営利活動法人Switch 理事長

当法人は、「働く・学ぶ」をキーワードにこころのケアを必要とする方へのサポートを行う法人として平成23年3月に設立、同年6月より障害福祉サービス事業所「スイッチ・センダイ」での活動を開始した。特に、IPS(Individual Placement and Support)モデルによる個別援助付き就労支援をベースにストレングスモデルの視点で本人の強みを尊重する就労支援を行っている。また、IPSの視点から個別援助付き就学(修学)支援として、大学生の復学支援なども行ってきた。しかし、たとえ学生生活に戻っても、その先の就活という彼らのライフステージで、非常に精神的な負荷のかかる時期がすぐに迫ってくることで不調を繰り返す学生も多い。そのため当法人では、大学側と協働で修学時から本人を支え、卒業後の就労支援から就労後のフォローアップ支援に至るまでのワンストップサポート支援体制を構築してきた。

障害福祉サービス事業所としてのフィールドでは、IPSの原則に沿った支援を厳密に行うことは不可能ではあるものの、本人のニーズに沿った個別支援体制のなかで、特に重視しているポイントがふたつある。ひとつは、ストレングスアセスメントである。彼らの本当の思いと希望はどこにあるのか、彼らの語る物語にじっくりと耳を傾け対話していく過程のなかで、ひとりひとりのストレングスを知ることができる。ストレングス視点で本人を尊重していくことは、自己効力感を持つことにもつながり、自分の人生は自分で選択すること、自分に責任を持つことを学んでいくことにもつながる。支援者は、いまできることに対するアクションプランを一緒に考え、そのプロセスにおける動機づけをどのようにフィードバックするかである。ふたつめは、職業サービスと精神保健サービスの連携が彼らの安定した職業生活を維持するためのポイントのひとつとなることである。地域リソースを活用したユニットで彼らの生活を支える仕組みは、仕事に対するモチベーションの維持にも非常に有効である。

若者のライフスタイルは、とても速いスピードで日々変化していき、日常が過ぎていく。そして、彼らが自分らしい生き方へどんどん成長していく姿に、支援者はときどき驚かされるのである。希望の仕事を獲得すべくリカバリーするスピードとストレングスが、症状の回復への糸口にもなる。当日は、IPSモデルにおける事例に基づいて、若年者が早期にリカバリーする可能性に基づいた支援プログラムや就学・就労支援におけるチームアプローチ支援体制について紹介したい。